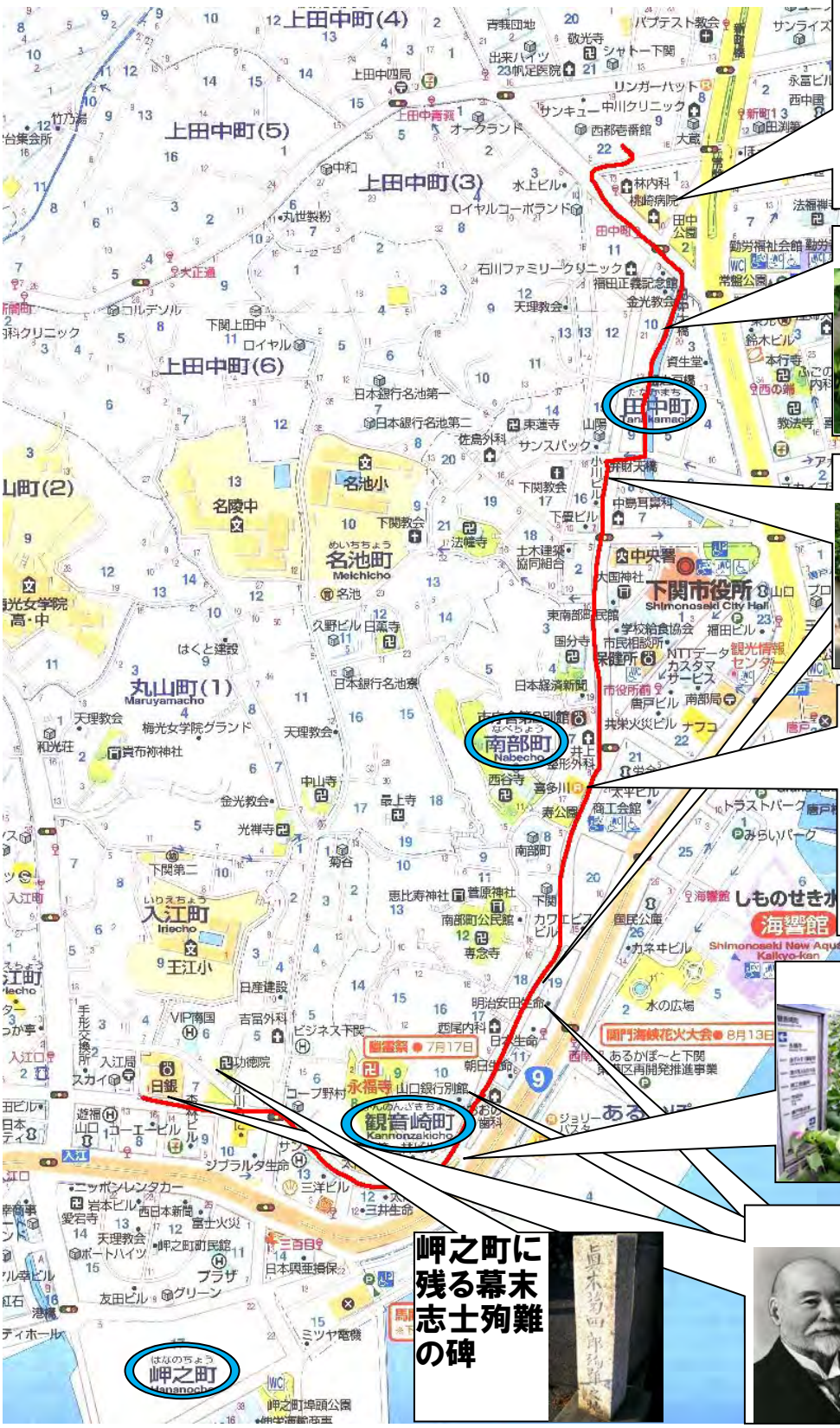
通勤路の愉しみ　— 花、街路樹、歴史、文学

岩下直行

「砂漠が美しいのは」王子さまが言った。「どこかに井戸を、ひとつかくしているからだね・・・」
（サン＝テグジュペリ『星の王子さま』、河野万里子訳）

1. 私の通勤路: 上田中町から、田中町、南部町、観音崎町を通って岬之町まで



林芙美子生誕の地の碑

田中川沿いに咲く夏の花

金子みすゞがかよった道

中通りの街路樹: トウカエデ

中通りの不思議な花々

岬之町に残る幕末志士殉難の碑

下関の3つの日銀支店

2. 田中町の田中川沿いに咲く夏の花

- 田中川の田中大橋から樋之戸橋、弁財天橋に至る川沿いの道には、土手の植え込みや民家の庭樹、鉢植えなど緑が多い。この時期は、様々な夏の花を見ることができる。

フヨウ（芙蓉）

ムクゲ（槿）

ハイビスカス

タチアオイ（立葵）

- いずれも**アオイ科フヨウ属**の花々。一日花で、咲いた翌日には花全体がしぼんで落ちる。
- 花色は白、紫、日の丸模様と様々。フヨウとムクゲの花は良く似ているが、枝と葉で見分けられる。
- フヨウ（芙蓉）は富士山の雅称でもある。芙蓉グループはみずほグループの旧名。「富士銀行」の「富士」にちなんだもの。
- アオイ（葵）は徳川将軍家の家紋として知られるが、この葵紋はウマノスズクサ科のフタバアオイの葉を図案化したもので、アオイ科の植物とは無縁である。

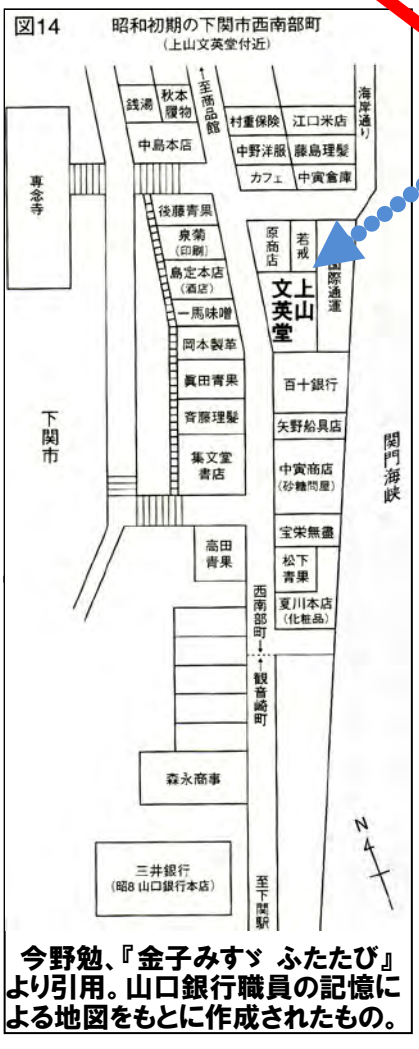
葵紋:

フタバアオイ（双葉葵）

エンジェルス・トランペット（Angels Trumpet）

- エンジェルス・トランペットは、キダチ・チョウセン・アサガオ（木立朝鮮朝顔）とも、ダツラとも呼ばれる低木。細長いラッパ状の花がぶら下がって咲く。花期は7～8月。下関では、田中町の田中川・弁財天橋のたもとをはじめ街角に多く見られる。有毒植物であり、取り扱いには注意が必要。

3. 金子みすゞがかよった道（下関市のホームページより）



今野勉、『金子みすゞ　ふたたび』より引用。山口銀行職員の記憶による地図をもとに作成されたもの。

商品館跡

金子みすゞは、この場所にあった商品館内の上山文英堂支店で働きながら、たくさんの詩を創作しました。商品館は、建物の中に店舗がいくつもある、いわゆる名店街のようなものでした。
（現在は山口銀行ビジネスサポートプラザ）

弁財天橋

上山文英堂から商品館までは、歩いて10分ほどの距離で、周りには、下関商業会議所などの近代建築物も建ち並んでいました。田中川にかかる弁財天（べざいてん）橋付近は、当時の風情が今も残っています。みすゞもこの川にかかる当時の橋を渡って、商品館に通ったことでしょう…

黒川写真館跡

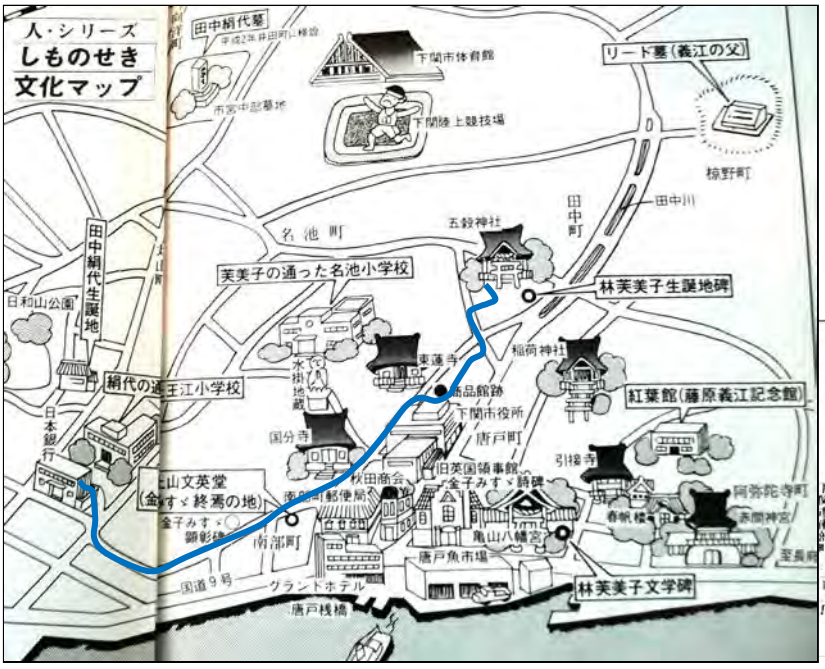
金子みすゞが、20歳の記念写真を撮ったのが、この地にあった黒川写真館（今の村田写真館）といわれています。このころから、ペンネーム「みすゞ」で詩を書き、雑誌『童話』、『婦人倶楽部』、『金の星』などに投稿を始めました。その後、西條八十に認められ、「若き童謡詩人の中の巨星」として詩人仲間の憧れの存在になりました。

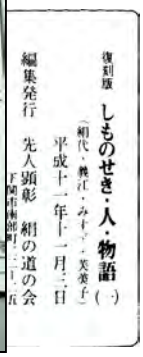
寿公園

金子みすゞは、1923年（大正12）、母の再婚先である下関市西南部町の上山文英堂書店に移り住み、西之端町の商品館にあった同店支店で働きながら、「金子みすゞ」のペンネームで優しさあふれる童謡を創作し、雑誌に投稿を始めました。この碑は、みすゞの20歳の写真と紹介文、詩「はちと神さま」の3枚で構成され、みすゞを顕彰するため、上山文英堂があった場所に近い南部町の寿公園に平成10年6月に設置されました。

上山文英堂本店跡

1923年（大正12）、20歳の金子みすゞが、山口県大津郡仙崎村（今の長門市仙崎）から移り住んだ地です。みすゞは、この地におよそ3年半住み、勤め先の商品館内の上山文英堂支店へ通いながら、たくさんの詩を創作しました。結婚ののち、1930年（昭和5）3月10日、26歳で亡くなったのもこの地です。（現在は明治安田生命ビル）



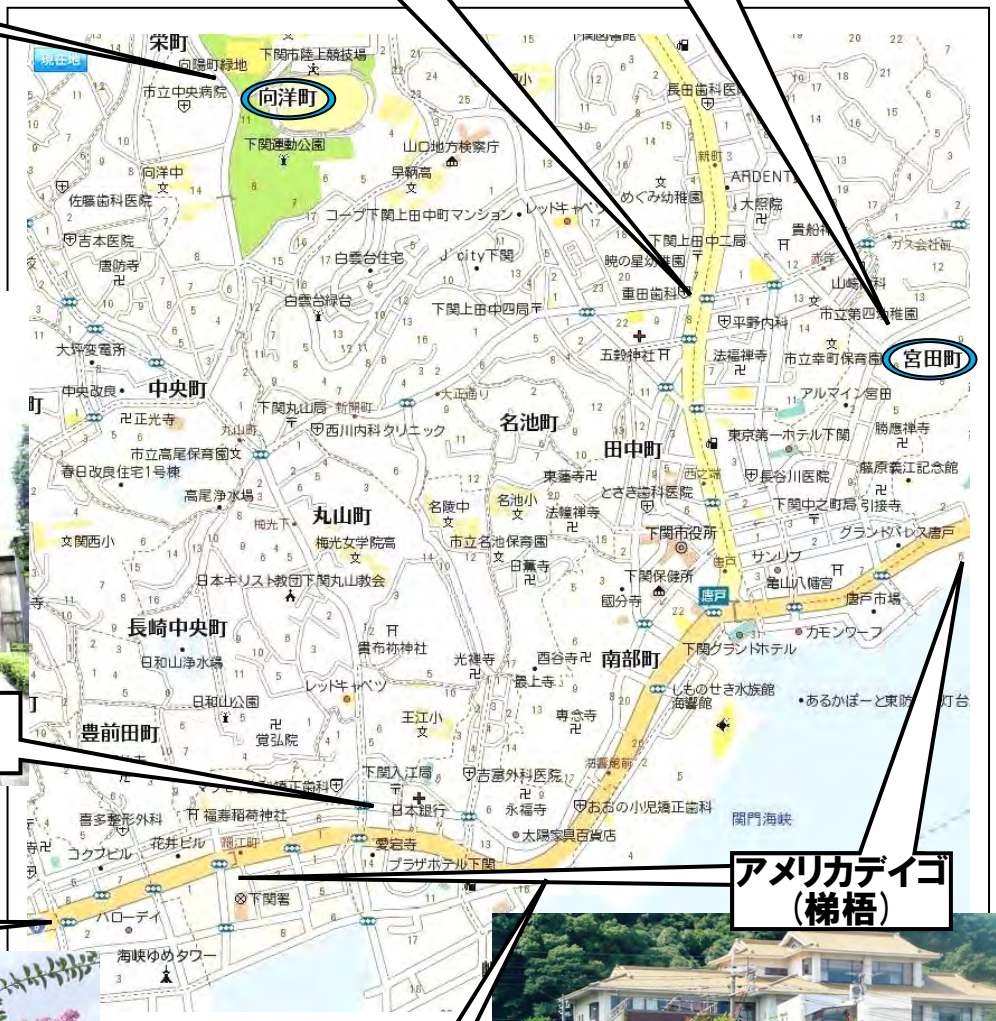

復刻版　しものせき・人・物語（一）
（絹代・義江・みすゞ・芙美子）
平成十一年十一月三日
編集発行　先人顕彰　絹の道の会

4. 下関の街路樹

ヒマラヤスギ

シダレヤナギ

ナンキンハゼ
（南京櫨）



トウカエデ
（唐楓）

サルスベリ
（百日紅）

アメリカデイゴ
（梯梧）

ケヤキ（欅）

5. 中通りの不思議な花々

ランタナ

ランタナ

ランタナ

コエビソウ（小海老草）

- ランタナは、中南米原産の低木。花期は7～12月。赤、橙、黄、白など鮮やかな色の花をつける。花の色が淡黄色から赤色に次第に変化することから、シチヘンゲ（七変化）とも呼ばれる。
- コエビソウは、ベロペロネとも呼ばれるメキシコ原産の植物。周年開花する。花のつく穂が苞（ほう）に覆われていて、その形が小海老の尻尾に似ていることからこの名がついた。

ハナスベリヒユ（朝8時）

ハナスベリヒユ（夕方6時）

ムラサキゴテン（紫御殿）

- ハナスベリヒユは、別名ポーチュラカとも言い、炎天下でも美しい花を咲かせる。葉は長円形の肉質、花は2～3cm で白、ピンク、赤、黄色、オレンジなどの花色がある。朝開花し、夕方には花を閉じてしまう。
- ムラサキゴテンは、メキシコ原産のツユクサ科の花で、その花よりも葉や茎のあざやかな紫色が美しい。

- 観音崎町の歩道の植え込みにあったフヨウの木。酔芙蓉（すいふよう）と呼ばれる品種である。朝に白い花が咲き、昼頃には薄いピンク色を帯びてくる。そして時間が経つにつれピンク色が濃くなり、翌朝落花する直前は桃色の花になっている。その様子が、人間がお酒に酔って顔色が変わっていく感じに似ているのでこの品種名がつけられた。なお、この木は8月中旬に伐採されてしまい、現在はない。

6. 下関の3つの日銀支店

① 下関における最初の日銀支店: 高橋是清の西部支店（明治 26～31 年）

日本銀行の第二の支店として、明治 26 年に開設。初代支店長は高橋是清（第 7 代日銀総裁、第 20 代内閣総理大臣）。西部支店は明治 31 年に門司に移転し、現在の日銀・北九州支店に引き継がれている。

初代支店長の高橋是清

ミニ知識

- 西部支店があった「赤間関市西南部町52番ノ1」は土地台帳から確認した結果、現在の南部町19-7明治安田生命下関ビルの敷地内と推察されます。
- 西部支店の建物は、第百十国立銀行（山口銀行の前身）の店舗（元は大きな船問屋の建物）を買い取り、改築を加えたものでした。西部支店の門司移転後は、再び第百十国立銀行が買い戻しています。

②下関支店開設　旧店舗時代（昭和 22 年～48 年）

昭和 22 年、旧下関税務署の建物を引き継いで、日本銀行下関支店が岬之町に設置された。

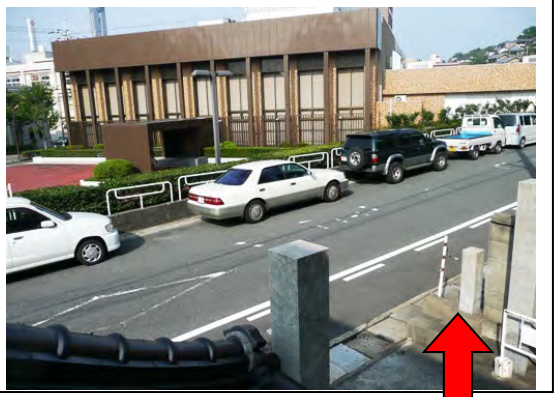
建物は戦災にあった元下関税務署庁舎に増改築を施して利用。

③営業所改築　仮店舗時代（昭和 48 年～50 年）

昭和 48 年から 50 年まで、店舗建て替えのため、観音崎町の山口銀行別館（現やまぎん史料館）を仮店舗として営業を続けた。

④現在（昭和 50 年～　）

昭和 50 年 1 月に鉄筋コンクリート造りの現在の店舗が完成、今日に至る。



岬之町に残る幕末志士、真木菊四郎殉難の碑について

真木菊四郎は、久留米水天宮の宮司であった真木和泉の二男。父、真木和泉が禁門の変で久坂玄瑞らと共に自害した後、父の遺命を受けて長州に逃がれ、慶応元年1月、長府功山寺に潜居していた三条実美ら五卿が太宰府に送られる際に同行するなど国事に尽くしていたが、同年2月14日、岬之町藪の内において長州俗論派と目される刺客に暗殺され、23歳の生涯を閉じた。贈従四位。